

事業概略書

施設における認知症高齢者の進行予防およびQOL改善を目指したリハビリテーションの開発とその効果検証に関する研究事業
社会福祉法人 仁至会 （報告書A 4版2頁）

事業目的

本事業の目的は、認知症の進行予防ならびに QOL 改善に有効なリハビリテーションプログラムを確立することである。イギリスで開発された認知刺激療法 (CST)を参考にした「いきいきリハビリ」、顔の表情やジェスチャーなどの非言語性コミュニケーションを活用した「非言語性コミュニケーションシグナルリハビリテーション (NCR)」、軽度および中等症の認知症患者に対して定期的な「運動リハビリ」について効果を検証し、有効なリハビリテーションプログラムを構築する。

事業概要

1. 「いきいきリハビリ」の開発と有効性の検証
 - 「いきいきリハビリ」の介入研究
 - 情報提供書「かけはし票」「思い出帖」の有用性に関する検討
 - 「いきいきリハビリ」の基礎となった CST のワークショップ参加
2. 「非言語性コミュニケーションシグナルリハビリテーション (NCR)」の開発と有効性の検証
 - NCR の介入研究
 - 個別アセスメントチャートの作成
3. 軽度認知症患者への運動リハビリプログラムの開発と介入研究
4. 報告書の作成

事業結果

「いきいきリハビリ」は、認知機能、生活の質 (QOL) を改善させる効果が認められた。そして「いきいきリハビリ」で得られた情報を「かけはし票」や「思い出帖」という形でケアスタッフと情報共有したところ、ケアスタッフからケアに役立つという評価を得た。CSTの実践ワークショップでは、実践者育成の方法を学んだ。

NCR には認知症高齢者の社会的シグナルの認知能力や、コミュニケーション能力を有意に改善させる効果が認められ、アルツハイマー型認知症高齢者に絞って検証しても同様の効果が認められた。NCR の効果は、認知症の症状が重度であるほど明らかであった。一方、作成したアセスメントチャートを現場スタッフに還元したところ、個人の認知機能の特徴の現状把握や、コミュニケーションシグナルを発する立場としての看護・介護上のヒントに役立つとの評価が得られた。

軽度認知症患者への運動リハビリ介入の効果については、事例が1例に留まっており、登録拡大を阻む要素を改善していく。

事業実施機関

認知症介護研究・研修大府センター

〒 474-0037 愛知県大府市半月町三丁目 2 9 4 番地

TEL 0562-44-5551